



※ 締切以降の申込みについては一切受付いたしませんので、御承知おきください。

第55回鳥取県青年大会兼第61回全国青年大会予選会実施要項

1. 趣旨 この青年大会は、県下の勤労青少年が集い、体育・芸能文化および意見発表等の総合大会を通して相互に友好親善を深め、健康で文化的な社会の建設に寄与せんとするものである。
加えて、各種文化・スポーツサークルなどにも参加を呼びかけ、広く県民に紹介すると共にスポーツ・芸術・文化活動の意識を高め、地域の担い手として育成するものである。
2. 運営方法 郡市大会は県大会予選を兼ね、青年の総意を集結して青年の意気を示し、県大会においては全国大会の予選を兼ねて実施し、地域の特色ある行事を加える。（郡市大会は現在休止中です）
3. 主催 鳥取県連合青年団
4. 後援 鳥取県・鳥取県教育委員会・公益財団法人鳥取県体育協会
鳥取県下全市町村及び教育委員会（予定）
5. 期日 2012年9月2日（日） 雨天時の野球・ソフトボールは 9月9日（日）
※フットサルについては、9月9日（日）に実施
6. 会場 東伯郡琴浦町一円

7. 実施種目

(1) 体育の部

(ア) バレーボール（9人制）	男・女	(イ) バスケットボール	男・女
(ウ) バドミントン	男女混合	(ロ) 軟式野球	男女
(エ) ソフトボール	男	(ハ) 卓球	男女混合
(キ) 柔道	男	(ニ) 剣道	男・女
(ク) ボウリング	男・女・男女混合	(ホ) フットサル	男女
(ケ) ソフトバレー	男女混合		

(2) 芸能文化の部

(ア) 演劇	(イ) 人形劇	(ウ) 合唱	(ロ) 郷土芸能
(エ) 写真展	(ハ) 生活文化展	(ニ) 将棋	(ホ) 意見発表
(ケ) 舞踊			

- (注) 体育の部のうち(ケ) ソフトバレーについては全国青年大会に派遣しない。
芸能文化の部のうち(ケ) 舞踊については全国青年大会に派遣しない。

8. 参加資格 参加者は、この大会の趣旨および運営方針により、次の各号に定める資格条件を有する者とする。なお、下記各号以外で各種目ごとの条件については、各種目別実施要項を参照のこと。

- (1) 1977年（昭和52年）4月1日以降に出生した者。
- (2) 学生・オーバーエージ（昭和52年4月1日より前に出生した者）の参加を認める。
参加する場合の条件は、種目別実施要項に定める。
- (3) 参加は1人1種目のみとする。
- (4) 職業競技者（演技者・技術者）であるものは参加できない。また、過去において職業演技者（技術者）であった者及び過去5年間に於いて職業競技者であった者及び学生で各競技の学生連盟に登録している者は参加できない。
- (5) 体育の部においては医師の健康診断を受け、健康であることが証明された者。
- (6) 国民体育大会少年の部等の出場者は全国青年大会への参加を認める。
- (7) 別表（1）の条件を満たさなければならない。
- (8) 過去において、別表（2）にかかげる大会に出場した者は参加できない。

9. 参加申込み

- (1) 申込期限 種目及び名簿の提出 2012年7月20日(金)まで
期日以後のものは特別な事情を除き無効(当日消印は有効とする)
(この場合は協議すること)
- (2) 申込場所 〒680-0846 鳥取市扇町21番地 県民ふれあい会館内 鳥取県連合青年団
FAX(0857)21-2289 担当: 田中(090-6415-6212)
メール seinen31@gamma.ocn.ne.jp
- (3) 申込方法 各参加チームが申し込むこと。
ただし、特別参加として申し込む場合は、その責任者。
(様式は別紙により各2部送付のこと)
- (4) 参加費 1人当り 2,000円
なお、参加費は参加名簿提出と同時に徴収。参加者とは、監督、コーチ、マネージャー、スコアラー、選手及び写真展の出展作品もしくは出展者とする。

10. 大会運営

- (1) 役員 各競技種目別に運営委員並びに記録係、審査員、審判員をおく。
- (2) 資格審査 次の者は欠格者とみなす。
 - ア) 開会式に参加しない者、チーム。
 - イ) 試合予定時間までに競技会場に到着しない者、チーム運営委員は競技開始前に選手並びに出演者の資格確認と運営上の注意を行う。
- (3) 組み合わせ・出演順序 主催者が行う抽選会によって決める。
- (4) 審査・審判 審判は鳥取県体育協会に委嘱した審判員によって行う。審査は、別に委嘱する審査員によって行う。

- 11. 事務局 この大会事務局は、鳥取県連合青年団事務局に置く。ただし、大会前日及び当日については、主会場に置く。

12. 実施種目の運営方法等(別紙)

13. その他

- (1) 服装、はきもの等は各団体で配慮すること。
- (2) 大会中の事故については、当日の応急措置に要する経費を事務局で負担する。
- (3) 健康保険証を持参すること。
- (4) 大会中の事故に備えて、スポーツ傷害保険に加入すること。
- (5) やむをえず棄権をする場合は、鳥取県連合青年団事務局(大会前・当日は大会本部)まで必ず届け出ること。無届の棄権は認められない。

14. 全国青年大会派遣

- (1) 派遣者の先行
 - ア) 大会終了後選考委員会を開き、全国大会出場者を選考する。
 - イ) 選考方針は、体育の部においては原則として優勝チーム、芸能文化の部は全国青年大会参加資格を持つものから優秀なものを選出する。
なお、写真展、生活文化展は原則として作品参加とする。
- (2) その他
 - ア) 全国青年大会は2012年11月9日から11月12日までの4日間、東京武道館を中心にして開催する。
 - イ) 全国青年大会出場選手及び役員をもって選手団を構成し、選手団は同一行動を取る。
 - ウ) 大会参加者は、第61回全国青年大会傷害保険及び賠償責任保険特約に団体加入する。
個々の掛け金は275円とする(詳細は別途定める)

別表(1)

体育の部

競技種目名	団体戦チーム編成	学生及びOAの参加条件	制限事項
バレーボール	同一地区内に居住する者で構成すること	登録選手のうち3名以内の参加を認める	参加回数、連続出場に制限はない
バスケットボール		登録選手のうち2名以内の参加を認める	
バドミントン		登録選手のうち男女各1名の参加を認める	
軟式野球		登録選手のうち3名以内の参加を認める	
ソフトボール		登録選手のうち3名以内の参加を認める	
卓球		登録選手のうち男女各1名の参加を認める	
柔道		登録選手のうち2名以内の参加を認める	
剣道		登録選手のうち男子は2名以内、女子は1名の参加を認める	
ボウリング		登録選手のうち男子、女子各1名の参加を認め、混合は男女各1名合計2名までの参加を認める	
フットサル		登録選手のうち1チームにつき各2名以内の参加を認める	
ソフトバレー		登録選手のうち1名の参加を認める	

芸能文化の部

競技種目名	チーム編成	学生参加条件	制限事項
演劇	同一地区内に居住する者で構成すること	1団体につき、児童を除く昭和52年4月1日以降に出生した出演者の3分の1の参加を認める	参加回数、連続出場に制限はない
人形劇		1団体につき、出演者の3分の1の参加を認める	
競技種目名	チーム編成	学生及びOAの参加条件	
合唱	同一地区内に居住する者で構成すること	1団体につき、出演者の3分の1の参加を認める	
郷土芸能 (民俗芸能)(創作芸能)		学生及びOAの参加は認めない。ただし共同作品で連名出品の場合は、メンバー数の3分の1の参加を認める	
写真展		出場選手が2名以上の場合に1名の参加を認める	
生活文化展		出場選手が2名の場合に1名の参加を認める	
将棋		出場選手が2名の場合に1名の参加を認める	
意見発表		1団体につき、出演者の3分の1の参加を認める	
舞踊		1団体につき、出演者の3分の1の参加を認める	

※学生とは、大学生、大学院生、短大生、専門学校生、専修学校生。(全日制高等学校生は含まない)

※定時制または通信制高等学校、各種学校の生徒および通信制大学、夜間大学の学生は一般青年。

※OA(オーバーエージ)とは、昭和52年4月1日より前に出生した者で、参加人数は学生枠と合わせた人数とする。

別表(2)

【バレーボール】

- | | |
|----------------------------|----------------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) 国民体育大会 |
| (ウ) V・プレミアリーグ | (エ) V・チャレンジリーグ |
| (オ) 全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会 | |

※国民体育大会の少年の部及び、全国高校選抜男女優勝大会、全日本高校男女選手権大会並びに全国高校男女定時制・通信制大会の出場者は全国大会への参加を認める。

【バスケットボール】

- | | | |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) 全日本総合選手権大会 | (ウ) 全日本実業団選手権大会 |
| (エ) JBL(JBL2)、WJBL | (オ) 国民体育大会(少年の部は除く) | (カ) 全日本実業団競技大会 |
| (キ) bjリーグ | | |

【バドミントン】(過去5年以内)

- | | | |
|-----------------|----------------|-----------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) 全日本総合選手権大会 | (ウ) 日本リーグ |
| (エ) 全日本社会人選手権大会 | (オ) 国民体育大会 | |

【軟式野球】

- | | |
|---------------|---------------------------|
| (ア) 天皇賜杯全日本大会 | (イ) 国民体育大会(高等学校軟式野球競技を除く) |
|---------------|---------------------------|

【ソフトボール】

- | | | |
|----------------|------------|--------------|
| (ア) 全日本総合選手権大会 | (イ) 国民体育大会 | (ウ) 全日本実業団大会 |
|----------------|------------|--------------|

【卓球】(過去5年以内)

- | | |
|------------------------|------------|
| (ア) 国際競技大会ならびに全日本選手権大会 | (イ) 国民体育大会 |
| (ウ) 全日本社会人選手権大会 | |

【柔道】

- | | |
|------------------------|------------------|
| (ア) 国際競技会ならびに全日本選手権大会 | (イ) 国民体育大会 |
| (ウ) 全日本実業団体対抗大会(3部は除く) | (エ) 全日本実業個人選手権大会 |
| (オ) 全国警察選手権大会 | (カ) 全国警察大会 |
| (キ) 講道館杯日本体重別選手権大会 | |

【剣道】

- | | |
|----------------------|-------------|
| (ア) 国際大会ならびに全日本選手権大会 | (イ) 国民体育大会 |
| (ウ) 全日本都道府県対抗優勝大会 | (エ) 全国教職員大会 |
| (オ) 全国警察官大会 | |

【ボウリング】(過去5年以内)

- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) 全日本選手権大会 | (ウ) 国民体育大会 |
|-----------|--------------|------------|

【フットサル】

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) 日本フットサルリーグ(Fリーグ) |
| (ウ) 全日本フットサル選手権大会(決勝大会) | |

※過去において、次にかかげるサッカー大会(リーグ)に出場した選手の出場は認めない。

- | | |
|-----------|--------------------|
| (ア) 国際競技会 | (イ) Jリーグ(J1・J2リーグ) |
|-----------|--------------------|

【写真展・生活文化展】(過去5年以内)

- | |
|-----------------------------|
| (ア) 日展等全国的公募展(ただし、入選した場合のみ) |
|-----------------------------|

【意見発表】

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| (ア) NHK青年の主張全国コンクール全国中央大会 | (イ) NHK青春メッセージ全国中央大会 |
|---------------------------|----------------------|

実施種目の運営方法

1. 体育の部

- (1) チーム編成は、同一地区内に居住する者で構成すること。
- (2) 学生(大学生、大学院生、短大生、専門学校生、専修学校生)は地域で活動する青年を参加対象とする。ただし、参加枠については種目ごとに定める。
- (3) O A (オーバーエージ) の参加については、学生の参加条件に準ずる。
- (4) 事故のため、選手の変更を希望するチームは、大会前日の午後5時までに事務局に申し出て承認を受けること。(当日の変更は認めない)
- (5) トーナメント戦の場合、3位以下の決定戦は行わない。
- (6) 無資格の選手が参加していることを発見したときは、失格発見のときのみを認め、それ以上にはさかのぼらない。

【バレーボール】

- (1) チーム 監督1名、男女とも選手各12名以内、コーチ、マネージャー各1名を加えることができる。ただし、選手は15名まで申し込むことができ、試合毎に選手12名をエントリーする。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち3名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) 平成24年度財団法人日本バレーボール協会9人制規則に準じて行う。
 - (イ) ユニフォーム(ジャージおよびパンツ)は清潔でデザインと色は統一されたものとする。
 - (ウ) 企業名、商品名の入ったユニフォームでの試合は認めない。ただし、上から別布で見えなくしたものは可。
 - (エ) ユニフォームには、必ず背番号、胸番号をつける。胸番号の大きさは字幅2cm以上で、縦10cm以上とする。背番号の大きさは、字幅2cm以上で、縦15cm以上とする。
 - (オ) ネットの高さは男子2.38m、女子2.15m
 - (カ) ボールの規格は、男女とも5号球 樹モルテン カラーボール「V5M5000」を用いる。
 - (キ) ボール内気圧0.31kg/cm²
 - (ク) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。

【バスケットボール】

- (1) チーム チームは男子、女子とも監督1名、選手12名以内とする。
なお、コーチ、アシスタントコーチ、マネージャーを各1名加えることができる。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち2名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) バスケットボール競技現行規則による。
 - (イ) ユニフォームの番号は0(00)番から99番とし、ユニフォームの色と区別できる単色の番号をつける。また異なるプレーヤーに同じ番号を用いてはならない。(ユニフォームの下ヘTシャツの着用は不可。)
 - (ウ) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。
 - (エ) ユニフォームは上下(シャツ・パンツ)それぞれ同型・同色のものを濃、淡両方(淡色は白色が望ましい)を用意すること。
 - (オ) 試合球は、一般男子公認球とする。(周囲75cm以上78cm以下、重さ600g以上650g以下)
 - (カ) 参加チームはオフィシャルを担当する。

【バドミントン】

- (1) チーム 監督1名、補欠を含め選手男女共4名以内とする。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち男女1名の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。
 - (イ) 対抗は女子複、男子複、混合複の順序で行い、そのうち2試合をえた方を勝ちとする。なお混合複は選手の重複出場もできる。
 - (ウ) シャトルは平成24年度検定合格水鳥シャトルを使用する。
 - (エ) 1、2回戦のみ、中途において勝敗が決した場合も最後まで行う。
 - (オ) 公益財団法人日本バドミントン協会現行競技規則および運営規定によって行う。
 - (カ) 服装については白を原則とし、色物を着用する場合は、公益財団法人日本バドミントン協会の審査合格品とすること。

【軟式野球】

- (1) チーム 監督1名、選手20名以内。なお、コーチ、マネージャー、スコアラーを各1名ずつ加えることができる。主将は選手とする。また、監督、コーチ、マネージャー、スコアラーも選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち3名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) 公益財団法人全日本軟式野球連盟現行規則に準じて行う。
 - (イ) ユニフォーム（帽子、ストッキング、スパイクも含む）はチーム全員同色同型とし、スパイクを使用のこと。また、スパイクの同色同型とは基調となる色を同色で統一し、ライン・ポイント等について制限しないこととする。
 - (ウ) 背番号は、プログラムに登録された0から30までとし、監督30番、主将10番、コーチは28または29番とする。登録された背番号の変更はできない。なお、企業名の入ったユニフォームは認めない。
 - (エ) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。また、7回で終了する。
 - (オ) 制限時間は90分とし、時間を越えて新しいイニングに入らない。
 - (カ) 試合球は公認A号（ケンコー）とする。
 - (キ) 5回以降、7点差をもってコールドゲームとする。
 - (ク) 延長は9回までとし、なお同点の場合はポジションジャンケンにより決定する。
 - (ケ) 雨天により当日試合が行えない場合は、9月9日（日）に試合を延期する。

【ソフトボール】

- (1) チーム 監督1名、選手20名以内。なお、コーチ2名、スコアラー1名を別途加えることができる。主将は選手とする。また、監督、コーチ、スコアラーも選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち3名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) オフィシャルソフトボールルールに準じて行う。
 - (イ) ユニフォーム（帽子、上着、ズボン）はチーム全員同色同型とする。また、靴の色・ラインはできるだけ統一することとする。靴は運動靴か、ソフトボール用のゴム底のスパイクとし、金属スパイクは使用を禁止する。
 - (ウ) 背番号、胸番号は選手1番から99番、主将10番、監督30番、コーチ31番、32番とする。なお、胸番号の大きさは6cm以上12cm以内とする。ただし、背番号（15cm以上）の上に個人名をつける場合は、ローマ字で全員つけること。ユニフォームに企業の名入りは認めない。
 - (エ) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。また、7回で終了する。
 - (オ) 制限時間は80分とし、時間を越えて新しいイニングに入らない。
 - (カ) 使用球は検定ゴム3号球とする。
 - (キ) 7回終了時同点の場合はタイブレークとし、9回終了しても勝敗の決しない時は抽選とする。
 - (ク) 打者、次打者、走者はヘルメットを着用すること。
 - (ケ) 雨天により当日試合が行えない場合は、9月9日（日）に試合を延期する。

【卓球】

- (1) チーム 監督1名、男子3名以内、女子3名以内とする。
- (2) ①個人戦のみのエントリー
男子…監督1名、選手1名とする。
女子…監督1名、選手1名とする。
②男子・女子ともエントリーする場合
監督は1名とする。
※なお、(1)(2)ともエントリーする場合も、監督は1名（兼任）とする。
- (3) 学生・O A 登録選手のうち、男女1名の参加を認める。ただし個人戦のみのエントリーはできない。
- (4) 競技方法
 - (ア) 日本卓球ルール同細則に準じて行う。
 - (イ) 日本卓球協会公認球、硬式（白色、40mm ボール＝ニッタクTSP）で行う。
 - (ウ) 試合順序は、1番（女）2番（男）3番（男女）4番（女）5（男）とし、1、2番に出場

の選手で3番の混合ダブルスを編成することはできない。

- (1) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。また中途において勝敗が決しても全員が競技を行う。
- (2) ユニフォームは、(財)日本卓球協会で公認されたメーカーの半袖・ショートパンツとする。団体戦に出場するチームの全競技者は、同じ服装で競技しなければならない。

【柔 道】

- (1) チーム 監督は1名。選手は先鋒(73kg級)1名、四将および中堅(90kg級)各1名、副将および大将(無差別)各1名の計5名で編成する。
なお計3名までの補欠選手を加えることができる。
- (2) 学生・OA 登録選手のうち2名以内の参加を認める。ただし、個人戦のみのエントリーはできない。
- (3) 競技方法
 - (7) 国際柔道連盟試合審判規定によって行う。試合時間は4分とする。
 - (4) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。また中途において勝敗が決した場合も最後まで行う。
 - (5) 個人戦は重量別に参加者全員が出場する。個人戦の申込は、チームごとに強い者から順に順序をつけて申し込むこと。
 - (6) その他については、全国大会要項によって行う。
- (3) 計量 出場者の体重計量は、当日試合場にて行う。計量の結果、規定外の体重となったものは出場を認めない。

【剣 道】

- (1) チーム 男子は監督1名、選手5名(先鋒、次鋒、中堅、副将、大将)、計6名とする。
女子は監督1名、選手3名(先鋒、中堅、大将)、計4名とする。
なお、男子にあっては2名、女子にあっては1名の補欠選手を加えることができる。
- (2) 学生・OA 登録選手のうち男子は2名以内、女子1名以内の参加を認める。ただし、個人戦のみのエントリーはできない。
- (3) 競技方法
 - (7) 財団法人全日本剣道連盟剣道試合・審判規則とその細則による。
 - (4) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。また中途において勝敗が決した場合も最後まで行う。
 - (5) 試合は、団体、個人とも3本勝負、試合時間は男子5分、女子3分とする。延長戦は男子3分、女子2分の1本勝負(各1回)とする。
 - (6) 個人戦は参加者全員が出場する。
 - (8) 竹刀については、男子長さ120cm以下、重さ510g以上、太さ26mm以上、女子長さ120cm以下、重さ440g以上、太さ25mm以上とする。

【ボウリング】

- (1) チーム 監督1名、選手男子・女子の部各3名、混合の部男女2名ずつ以上の5名とする。
補欠は各部1名(混合の部は男女1名ずつ)のみ認める。男子・女子の部に出場した選手が混合の部に出場しても差し支えない。監督は選手を兼ねることができる。選手を兼ねる場合の選手数はそれも含める。
- (2) 学生・OA 登録選手のうち男女1名以内の参加を認め、混合は男女各1名合計2名までの参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (7) 公益財団法人全日本ボウリング協会(J. B. C)の競技規定に準じて行う。
 - (4) 服装はスポーツのできる襟付きのもの(ポロ・開襟シャツ)を着用する。ジーンズ、ショートパンツでの出場は認めない。
 - (5) 試合方法は、男子・女子の部では、全員が前半3ゲーム、後半3ゲームずつ投げ、チーム全体のトータル点数により順位を決定する。同点数が出た場合は、必要に応じて代表者が1人1フレームずつ投球して順位を決定する。
 - (6) 混合の部はペーカー方式とする。
 - ①各ゲームの決められた投球順序の5名がフレームずつを投球し、1ゲームを10フレームとする。投球順序はゲームごとに変えることができるが、ゲーム内で変えることはできない。
 - ②各チーム2ゲームずつ投球し(2ゲーム目はレーンを交替)、順位を決定する。
 - ③同得点が出た場合、2ゲームの得点差の少ない方を上位とする。ただし、1位が同得点の場合は、両チームの代表1名が第9フレーム、第10フレームを決着がつくまで投球する。

【フットサル】

- (1) チーム 監督1名、コーチ1名、スタッフ2名、選手20名（性別を問わない）以内。監督、コーチ、スタッフは選手を兼ねることができる。選手として兼ねる場合は、選手数はそれも含めて20名以内とする。
登録選手は、大会申込み時点で財団法人日本サッカー協会・フットサル大会登録を完了していること。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち、1チームにつき各2名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) 当該年度日本協会制定の「フットサル競技規則」による。
 - (イ) ユニフォーム（シャツ・ショーツ・ストッキング）は、フィールドプレーヤー・ゴールキーパーのそれぞれすべてが同色・同デザインのものとする。
 - (ウ) ゴールキーパーのユニフォームについては、フィールドプレーヤーとしてプレーしていた競技者がゴールキーパーとしてプレーする場合は、ゴールキーパーと同色・同デザインであることを基本とする。また、事前に登録された色彩のゴールキーパー及びフィールドプレーヤーのユニフォームの中から選択して着用することもできる。ただし、その試合で着用されるそれぞれのフィールドプレーヤーおよび相手ゴールキーパーの色彩と異なり、試合前のマッチコーディネーションミーティング（審判立会の打合せ）において承認された場合に限り着用を認める。また、競技者が着用するユニフォームにはその競技者自身の番号を付けなければならない。なお、けがや退場処分等の突発的な諸事情により、交代要員のゴールキーパーが不在でかつ準備が整っていない場合、主審の判断により、ゴールキーパーのユニフォームを前述以外のユニフォームで代用する事ができる。
 - (エ) ユニフォームのうちシャツの色彩は、審判員が通常着用する黒色（紺を含む）と明確に判別できるものでなければならない。なお、ショーツ・ストッキングについてはこの限りではない。
 - (オ) ユニフォームシャツの袖から出るアンダーシャツ、ショーツの裾から出るスパッツ、タイツについては、ユニフォームの色と同色のものに限り着用を認める。
 - (カ) シューズは、体育館用シューズとし、床面を痛めるスタッドの付いたシューズや床面にマークをつけるシューズは認められない。原則として、接地面がアメ色もしくは白色のものを使用する。
 - (キ) レガース（すね当て）を必ず着用しなければならない。
 - (ク) 計測はランニングタイムで行う。
 - (ケ) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。
 - (コ) 前・後半10分（ハーフタイムのインターバル2分）で行う。
 - (サ) プレーの時間内で勝敗が決しない場合、6分間（3分ハーフ）の延長戦を行い、決しない場合はPK方式により勝敗を決定する。
 - (シ) 競技は9月9日（日）に行う。

【ソフトバレー】

- (1) チーム 監督1名、競技者男子1名以上、女子1名以上の4名、4名以内の交代競技者、マネージャー1名で構成される。監督、マネージャーは競技者を兼ねることが、競技者、交代競技者の数が規定を超えることはできない。
- (2) 学生・O A 登録選手のうち、1チームにつき1名以内の参加を認める。
- (3) 競技方法
 - (ア) 日本ソフトバレーボール連盟現行ルールに準じて行う。
 - (イ) 試合方法については、参加チーム数によって決定する。代表者会議にて方法を報告する。
 - (ウ) 試合中は、コート内に必ず男子1名、女子1名以上いなければならない。
 - (エ) 試合球はゴム製で、重さ210±10g、円周78±1cmの（財）日本バレーボール協会制定のソフトバレーボールを使用する。なお、色については限定しない。
 - (オ) 競技者のユニフォームは、チームにより統一された色のものを用いなければならない。
- (4) コート バドミントンのダブルス用コートの外側ラインを使用する。
支柱やネットは、バドミントン用のものを利用してよいが、補助器具を継ぎ足して規定の高さにする。

※この種目については、鳥取県青年大会のみの実施であり、全国青年大会への派遣はしない。

2. 芸能文化の部

- (1) 参加者は体育の部に準じて選考されたもの。ただし、学生については各種目の規定に準ずる。
- (2) チーム編成は、同一地区内に居住する者で構成すること。
- (3) 無資格者が出演または参加したときは、演劇及び人形劇・合唱・課題舞踊・郷土芸能・にあつてはそのチーム全員、写真展・生活文化展にあつては当該参加者を失格とする。

【演 劇】

- (1) 目 的 地域社会の特徴を生かし、郷土社会に直結したもので演劇を通じての青年の人間形成に役立て、社会文化の向上を目指す。
- (2) 脚 本 脚本は創作、既成脚本のどちらでもよい、ただし上演にあたり脚本、美術、音楽等において著作権を有する著作物を使用するときは、必ず著作権者、出版社等より使用許諾を受けることとし、脚本において、既成脚本、または出版物の中の原作を脚色した場合は、その作者名、出典先を必ず明示すること。
- (3) 出演時間 搬入、飾りつけ、撤去の時間を合わせて60分以内とする。(時間厳守)
- (4) 出 演 者 7) 昭和52年4月1日以降に出生した青年が半数以上であること。
4) 人数の制限はない。
5) 学生については一団体に付き、児童を除く昭和52年4月1日以降に出生した出演者のうち、出演者の3分の1以内の参加を認める。
- (5) 装 置 最も簡素にして、しかも舞台の効果を生かしたものが望ましい。大道具、小道具は上演チームにおいて用意すること。
- (6) 審査事項 7) 青年演劇としてのねらいがよく生かされていること
4) 装置、照明等は最も簡素にして、しかも創意工夫に優れたものであること。
- (7) その他全国青年大会要項による。

【人 形 劇】

- (1) 目 的 人形劇を通じて子どもたち等とふれあいの中から豊かな心と夢を育て、文化的な地域づくりをめざす。
- (2) 脚 本 脚本は創作、既成脚本のどちらでもよい、ただし上演にあたり脚本、美術、音楽等において著作権を有する著作物を使用するときは、必ず著作権者、出版社等より使用許諾を受けることとし、脚本において、既成脚本、または出版物の中の原作を脚色した場合は、その作者名、出典先を必ず明示すること。
- (3) 出演時間 飾りつけ、撤去の時間を合わせて50分以内(時間厳守)。
- (4) 出 演 者 7) 昭和52年4月1日以降に出生した青年が半数以上であること。
4) 人数の制限はない。
5) 学生については一団体に付き、昭和52年4月1日以降に出生した出演者のうち、出演者の3分の1の参加を認める。
- (5) 装 置 簡素にしてしかも舞台の効果を生かしたものが望ましい。大道具、小道具は上演チームにおいて用意すること。
- (6) 審査事項 7) 人形劇としてのねらいがよく生かされていること。
4) 装置・照明・効果等は最も簡素にして、しかも創意工夫に優れているものであること。
- (7) その他、全国青年大会要項による。

【合 唱】

- (1) 目 的 合唱を通じて、青年の人間性を豊かにし、地域社会の文化向上に役立てる。

- (2) 曲 目 作 詞 作 曲
7) 課題曲 「この美しきもの」 丸岡 秀子 大西 進
「望郷の歌」 及川 恒平 小林 亜星
「地球の日」 関山 昭子 大西 進
「風がはこぶもの」 山上 路夫 菅原 進
「モルダウの流れ」 平井多美子 スメタナ
「風と光」 片岡 輝 池辺晋一郎
「星に願いを」 Ned Washington Leigh Harline
「もったときらきら」 沢 環 沢 環
「現代から…これから」 全国青年大会イメージソング
宮崎市青年団 戸高 正博

- (2) 準課題曲 「大地讃頌」(混声合唱組曲「土の歌」第七楽章)
大木惇夫 作詞 / 佐藤 真 作曲
「アメージンググレース」(原題 Amazing Grace) 賛美歌
「さとうきび畑」 寺島尚彦 作詞・作曲
「翼をください」 山下路夫 作詞 / 村井邦彦 作曲
「〇と△の歌」 武満 徹 作詞・作曲

以上の14曲の中から1曲

準課題曲は合唱課題曲集には掲載しないが、課題曲として選択することもできる。

どの曲目においても、市販の混声、男声、女声の各合唱譜の使用のほか、独自にアレンジを加えることを認める。

4) 自由曲 以上の課題曲（準課題曲も含む）の他、自由曲を歌うこと。

(3) 演奏時間 課題曲（準課題曲も含む）と自由曲で10分以内。

(4) 出演者

7) 出演者の数は伴奏者、指揮者を合わせて34人以内とする。

4) 伴奏者・指揮者の資格は特に制限はない。

5) 学生・O.Aは、一団体に付き3分の1の参加を認める。

(5) 参加申込み

出演者、指揮者及び伴奏者のほか、必ず演奏曲目と演奏時間を正確に記入して申し込むこと。なお、自由曲の楽譜を5部提出すること。課題曲を準課題曲の中から選んだ場合は、実際に使用するアレンジした譜面を5部提出すること。

【郷土芸能（民俗芸能の部／創作芸能の部）】

(1) 目的 郷土芸能（郷土で広く行われている芸能）を青年たち自身が継承し、また起こしていく活動を通して、郷土の文化遺産に対する認識を深め、広く継続発展していくよう奨励をはかる事を目的とする。

(2) 演目 実施する演目内容は、次のとおりとし、それぞれの部に出場することができる。

7) 民俗芸能の部として実施する内容

郷土にある民俗（民衆の間に伝えられ行われている風習、風俗）に根ざして、一般に歌われあるいは踊られている郷土民謡、郷土舞踊などで、少なくとも15年以上経過している郷土芸能。

4) 創作芸能の部として実施する内容

① その土地に古くあった郷土民謡、郷土舞踊、民話などをもとにして、青年が創意工夫し起こした創作芸能。

② 15年に満たない郷土芸能。

③ 創作太鼓

(3) 上演時間 20分以内（ただし、装置あるいは飾りつけの撤去の時間を含む）

(4) 出演者

7) 昭和52年4月1日以降に出生した者。

4) 出演者の数は、伴奏者を合わせて30人以内とする。

5) 伴奏者（お囃子、唄い手、その他の楽器演奏者）に制限はないが、伴奏者以外の舞台出演者（唄い手、踊り手、その他の登場者）は一般出場者と同一資格のものとする。ただし、唄を主体とした芸能の場合はこの限りではない。

6) 伴奏にテープの使用は認めない。

7) 学生・O.Aは、一団体に付き3分の1の参加を認める。

(5) 装置その他

7) 装置あるいは飾りつけは簡素なものとし、必要最小限にとどめる。

4) 衣装などは平常しているものを使用し、新調はさけること。

5) 照明は照明プランによる技術的操作は行わない。

(6) 参加申込書のほか、その芸能または行事名と上演する曲名および沿革、歴史などを簡単に書いて添付すること。

(7) 審査事項 古くから伝承されてきた演技、演奏または歌唱の技術を高度に表現し、当該芸能の目的・性格などをよく示した演出をしたもの、および芸能集団としての統一をよく示し、当該芸能の保存とその正しい伝承に意欲的であるとみとめられるもの。

【写真展】

(1) 目的 青年が、自らの体験や地域社会での活動で得たものを記録し表現した写真作品を展示し、文化の発展に寄与する。

(2) 部門

7) テーマ作品の部 テーマ「わたしの一番」

4) 自由作品の部

(3) 参加資格

7) 昭和52年4月1日以降に出生した者

4) 平成24年5月1日からひきつづき鳥取県に居住する者

5) 学生以外の者。ただし共同作品で連名出品の場合は、メンバー数の3分の1以内に限り学生及びO.Aでの参加を認める。

6) 職業技術者および過去において職業技術者であった者は参加できない。

7) 過去5年のあいだ、全国公募展で発表した作品は出品できない。

か) 過去に出品した同一作品の再出品は認めない。

キ) 無資格者の参加は該当者を失格とする。

(3) 作品の大きさ

ア) 作品は単写真、組み写真とも可。サイズは、4切りまたはA4から全倍またはB1の範囲内とする。ただし、組み写真を1枚でレイアウトする場合は100cm×150cm以内のパネルに構成すること。

イ) 出品作品は額装またはパネル張り、およびそれに準ずるものとする。

(4) 出品点数 両部門を合わせて一人5点までとする。

(5) 出品票

ア) 出品作品に出品票を作品の裏に添付すること。組み写真の場合は個々の作品に出品票を添付するとともに展示順を明記すること。ただし、1枚にレイアウトする場合、出品票は1枚でよい。

(6) その他全国青年大会要項に準ずる。

【生活文化展】

(1) 目 的 健康で明るい文化生活を築くため、青年の創意工夫による日常生活に役立つ作品を展示する。

(2) 種 目 展示するものは、デザインの美しさと実用性を調和させるもので次の事項に関するもの。

ア) 工芸品 イ) 手芸品 ウ) 室内装飾品 エ) 日常生活用具

(3) 参加資格 ア) 昭和52年4月1日以降に出生した者。

イ) 学生及びオーバーエージ枠の参加は認めない。ただし、共同作品で連名出品の場合は、メンバー数の3分の1の参加を認める。ただし、この人数は学生及びオーバーエージ枠を合わせた人数となっていることに注意すること。

ウ) 職業技術者および過去において職業技術者であった者は参加できない。

エ) 過去5年以内において、次にかかげる大会に出場した者は参加できない。

・日展等全国的公募展(ただし、入選した場合のみ)

(4) 出品規定 出品点数は一人5点までとする(セットになっているものは1セット1点とみなす)運搬に便利で、壊れにくくなるべく展示面積及び容積をとらないものに限る。運搬が困難なものについては、アイディア及び実用に供している姿を示す写真(カラーで4つ切程度)などを作品に代えて出品してもよい。なお、これをパネルに構成する場合は100cm×150cm以内とすること。

出品物には必ず説明書を添付し、創意改善の動機、使用方法及びその状況効果などを的確に記載すること。

(5) そ の 他 全国青年大会の要項に準ずる。

【将棋】

(1) 参加資格 ア) 昭和52年4月1日以降に出生した者。

イ) 学生及びオーバーエージ枠の参加を1名認める。ただし、この人数は学生及びオーバーエージ枠を合わせた人数となっていることに注意すること。

ウ) 全日本学生将棋連盟に加盟する者、棋士、指導棋士、元棋士、奨励会員は参加できない。

(2) 競技方法 ア) 公益財団法人日本将棋連盟現行ルールに準じて行う。

イ) 持将棋の場合は持点の多い方が勝ちとなる。

ウ) 問題の生じた場合は審判の判定による。

エ) 持将棋の場合、同店は先手の負け、後手の勝ちとなる。

(3) そ の 他 全国青年大会の要項に準ずる。

【意見発表】

(1) 目 的 この大会の主旨に即し、地域青年が日常生活において見聞きし、体験し、思索研究して得た自らの意見を発表することを目的とする。

(2) テーマ

「青年大会にふさわしく、かつ、青年の意識、生活、活動を基調として課題を設定すること。社会的な関わりや、実践活動の中で、自分が一番燃えていること、不満や不安をこう解決したいと思って努力していることなど、自由なテーマでの発表とする。」

(テーマの例)

ア) 青年と労働、女性の抱える悩みや問題、恋愛・結婚・家族、過疎や農林漁業の問題、子どもたちの関わりや教育に関する提言、環境問題など、地域社会の抱える身近なテーマ。

イ) 平和、人権など、地域から日本社会全体までを視野としてとらえたテーマ。

ウ) 国際的なボランティアや国際交流、また地域の外国人との関わりなど、個人や組織がどの様に

考え、どのような取り組みをしていくのか国際的な視野を持ったテーマ。

エ) 地域社会にとって、青年活動がどのような役割を果たしていくのかに視点を絞ったテーマ。

オ) 青年活動における仲間づくりや組織作りに視点を置いたテーマ。

(3) 発表時間 1人8分以上10分以内とする。(400字詰め原稿用紙7～8枚程度)。別に質疑応答3分以内。

(4) 発表のために必要な展示物の大きさは原則として120センチ×150センチ以内とする。ただし枚数は制限しない。(その他、補助機材としてプロジェクター(パソコン)、スライド、ビデオ等の視聴覚機材の使用もできる。)

【舞 踊】

(1) 目的 舞踊を通じて青年の人間性を豊かにし、地域社会の文化向上に役立てる。

(2) 演 目 日本舞踊、西洋舞踊とする。

ア) 課題舞踊 ・「大山賛歌」 ・コード 4RS-299 ・「若き友よ」
・「もったときらきら」 ・「シアワセという絵」 ・「未来(あす)への光」

イ) 自由舞踊 演目は指定しないが審査は課題舞踊に準ずる。

(3) 出演者 課題舞踊・自由舞踊とも5名以上で編成すること。

(4) 上演時間 5分以内とする。

(5) 審査事項

ア) 青年らしい若さが表現されているもの。

イ) 全体の構成に創意工夫のみられるもの。

(6) 参加申込 演目及び出演時間、簡単な解説を付して申込むこと。

第55回鳥取県青年大会種目申込書

下記のとおり大会参加を申し込みます
2012年 月 日

鳥取県連合青年団
団長 砂口 真 様

市町村(団名)

連絡先
(未加盟市町村は教育委員会の担当者名・連絡先)

参加種目のNo.に○をして、人数をご記入ください。

体 育 の 部			芸 能 文 化 の 部		
No.	種目	参加人数	No.	種目	参加人数
1	バレーボール男子	人	15	演 劇	人
2	バレーボール女子	人	16	人 形 劇	人
3	バスケットボール男子	人	17	合 唱	人
4	バスケットボール女子	人	18	郷土芸能(民俗芸能)	人
5	バドミントン	人	19	郷土芸能(創作芸能)	人
6	軟 式 野 球	人	20	写 真 展	人
7	ソ フ ト ボ ー ル	人	21	生 活 文 化 展	人
8	卓 球	人	22	将 棋	人
9	柔 道	人	23	意 見 発 表	人
10	剣 道 男 子	人	24	舞 踊 (自 由)	人
11	剣 道 女 子	人	25	舞 踊 (課 題)	人
12	ボ ウ リ ン グ	人	文化の部参加者数小計		人
13	フ ッ ト サ ル	人			
14	ソ フ ト バ レ ー	人			
体育の部参加者数小計		人			

総参加者数合計

人

第55回鳥取県青年大会『^{種目名}参加選手名簿』

男・女（バレー、バスケ、剣道は該当に○を）

写真展・生活文化展もこの書式に作品出品者を記入ください。

申込人数	
選手	人
マネージャー	人
スコアラー	人
コーチ	人
監督	人
合計	人

選手を兼ねる場合は選手として数える

チーム名	
代表者名	
〃住所	〒
〃Tel(自宅)	
〃Tel(職場又は携帯)	

No.	ポジション	氏名	性別	年齢	生年月日	現住所	自宅Tel
1					年 月 日		
2					年 月 日		
3					年 月 日		
4					年 月 日		
5					年 月 日		
6					年 月 日		
7					年 月 日		
8					年 月 日		
9					年 月 日		
10					年 月 日		
11					年 月 日		
12					年 月 日		
13					年 月 日		
14					年 月 日		
15					年 月 日		
16					年 月 日		
17					年 月 日		
18					年 月 日		

記入漏れのないようにお願いします

年齢は2012年4月1日現在

※ポジションはバレー・バスケ・ソフトボール・軟式野球・柔道・剣道は記入、芸能文化は役割・キャスト等を記入

第55回鳥取県青年大会メンバー変更申請書

鳥取県連合青年団

団長 砂口 真 様

標記の件につきまして、下記のとおり変更したいので、承認くださるよう申請いたします。

種目名

代表者名

変更前	変更後					
ポジション	氏名	氏名	性別	年齢	生年月日	住所
					年 月 日	
					年 月 日	
					年 月 日	
					年 月 日	
					年 月 日	

注) 追加登録の場合、参加費を添えて申請してください。

第55回鳥取県青年大会

『写真展・生活文化展』出品票

(該当に○を)

2部提出ください。さらに展示の際、各自で作品に添付すること。

出品者氏名

(住所) 〒

(連絡先TEL)

出品種別 (写真・生活文化)

(該当に○を)

出品作品名

これまで、行ってきた写真活動もしくは個人の学習方法について

第55回鳥取県青年大会『ボウリング』参加選手名簿

(男・女・混合) (該当に○印を)

申込人数	
選手	人
監督	人
合計	人

選手を兼ねる場合は選手として数える

チーム名	
代表者名	
〃 住所	〒
〃 住(自宅)	
〃 住(職場又は携帯)	

No.	氏 名	性別	年齢	生年月日	現住所	重複
1				年 月 日		
2				年 月 日		
3				年 月 日		
4				年 月 日		
5				年 月 日		
6				年 月 日		
7				年 月 日		

年齢は2012年4月1日現在

記入漏れのないようにお願いします

第55回鳥取県青年大会 全国青年大会予選会



体育競技

バレーボール バスケットボール バドミントン 軟式野球

ソフトボール 卓球 柔道 剣道 ボウリング フットサル

文化競技

演劇 人形劇 合唱 郷土芸能 写真展 生活文化展 将棋

意見発表

日時 平成24年9月2日(日) 9:00~

フットサルは9月9日(日)

雨天時:野球・ソフトボール9月9日(日)

場所 東伯郡琴浦町一円

申込先 鳥取県連合青年団事務局

締切 平成24年7月20日(金)

TEL・FAX 0857-21-2289

メール seinen31@gamma.ocn.jp

担当: 田中(090-6415-6212)

主催 鳥取県連合青年団

後援 鳥取県教育委員会、公益財団法人鳥取県体育協会、各市町村教育委員会(予定)